

■ 掲示板

■ 広島大学 放射光科学研究センター 助手公募

公募人員：助手 1 名

所 属：広島大学 放射光科学研究センター

専門分野：HiSOR の光源性能向上や次期計画に関連する加速器研究に意欲的に取り組み、大学院学生の研究指導と教育の補助に従事できる方。

応募資格：博士号取得または取得見込み。

着任時期：平成17年4月1日

任 期：1年毎の更新により最大3年間

提出書類：(1)履歴書(写真添付)、(2)研究歴、(3)着任後の抱負、(4)発表論文リスト、(1)5主要論文別刷り(3編以内)、(6)推薦書または照会可能者2名の氏名と連絡先

公募締切：平成17年2月18日(金)必着

書類送付先：〒739-8526 東広島市鏡山2-313

広島大学 放射光科学研究センター

センター長 谷口雅樹

問合せ先：同センター 堀 利匡(光源担当)

TEL：082-424-6996(直通)、-6293(事務室)

FAX：082-424-6294

Email：tosihori@hiroshima-u.ac.jp

その他：封筒に「応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は書留とすること。

詳細は <http://www.hsrb.hiroshima-u.ac.jp/> を参照。

■ 会告

■ 第63回評議員会議事録

日 時：2004年8月28日(土) 12:30~14:20

場 所：東京大学工学部6号館大会議室

出席者：飯田厚夫、柿崎明人、鎌田雅夫、上坪宏道、河田 洋、木下豊彦、熊谷教孝、小林克己、坂田 誠、曾田一雄、高田昌樹(行事幹事)、高橋敏男、谷口雅樹、大門 寛、中井 泉、中川和道、並河一道、野村昌治、松下 正(会長)、圓山 裕、柳下 明(編集幹事)、横山利彦、若槻壮市 各評議員
桜井健次(庶務幹事)、木村真一(渉外幹事)、百生 敦(会計幹事)、下村 理(次期会長、オブザーバー)、西野(事務局)

欠席者：朝倉清高、岩崎 博、大野英雄、籠島 靖、北村英男、田中健一郎、松井純爾

(審議事項)

1. 議長に柿崎明人評議員を選出した。
2. 第62回評議員会議事録(案)を承認した。
3. 高橋敏男選挙担当評議員より、次期会長および次期評議員選挙の実施結果に関する報告があり、承認した。評議員については、定数15に対し票数が同数で14位の候補者が3名いたため、2名連記の投票により最終確定を行った。選挙結果は次の通りである。

○次期会長(任期：2005.1.1-2006.12.31) 下村 理

○次期評議員(任期：2005.1.1-2006.12.31)

石川哲也、上野信雄、宇理須恒雄、大熊春夫、大隅一政、古宮 聰、桜井健次、佐藤 繁、菅 滋正、鈴木芳生、難波孝夫、野田幸男、浜谷 望、宮原恒昱、村上洋一

○次期も引き続き評議員である者

(任期：2004.1.1-2005.12.31)

- 柿崎明人、上坪宏道、河田 洋、北村英男、木下豊彦、熊谷教孝、坂田 誠、田中健一郎、谷口雅樹、中井 泉、野村昌治、松井純爾、松下 正、圓山 裕、横山利彦
4. 桜井庶務幹事より、会長選挙に関する規定(日本放射光学会細則第4条の2)に関し、票数が同数であるとき現会長が決定する現規定を修正し、評議員会が決定することとした旨、説明があり、承認した。2005年1月の次回総会で承認を受けた後に発効する。
 5. 桜井庶務幹事より、第9回学会奨励賞の応募・審査状況について報告があり、承認した。今回、過去最高の11名の応募があった。
 6. 桜井庶務幹事より、学会誌「放射光」本年3月号および5月号の会告欄誤掲載問題、とりわけSPring-8課金問題特別委員会の非公開議事メモが誤掲載された問題の経過報告があり、再発を未然に防止するため、幹事会・事務局の任務分担の変更について提案があった。会告欄記事の管理および会合記録の取扱いに関して種々の議論があり、幹事会で再検討することとなった。
 7. 松下会長より、特別委員会「SPring-8利用に関わる課金問題検討委員会」の活動について報告があり、承認した。席上配布された「SPring-8利用に関わる課金問題について」の日本放射光学会の見解および報告書(「放射光」7月号掲載)は、SPring-8の諮問委員会や文部科学省担当部署、科学技術学術審議会の関係者等、本件に関係あると考えられる人々に松下会長から渡されている。本報告に関連し、8月20日付日本経済新聞の紙面に、SPring-8はじめ旧科技庁系の大型研究施設を有料化されることが報道されていることについて意見交換を行った。
 8. 松下会長より、今週放射光学会主催で開催された上海新放射

光施設計画ワークショップについて、報告があり、承認した。本ワークショップの報告は「放射光」に掲載される。

- 協賛・講演関係の7件の承認案件（計測自動制御学会関西支部「平成16年度講習会」（協賛依頼）、文部科学省ナノテクノロジー総合支援プロジェクト放射光グループ研究成果報告会（後援依頼）、日本真空協会関西支部 & 日本表面科学会関西支部合同セミナー2004—欧州環境有害物質使用制限指令（RoHS）対応の最先端技術（協賛依頼）、2004年度日本物理学会科学セミナー（協賛依頼）、VACUUM2004—真空展（協力名義使用依頼）、平成16年度放射光利用研究基礎講習会（協賛依頼）、第11回極低温検出器国際ワークショップ（後援依頼））を承認した。また会員異動（正会員入会22名、同退会14名、賛助会員入会1社、同退会1社、購読会員入会1社）の承認を行った。

（幹事報告）

- 高田行事幹事より、7月30日～31日に開催された「若手を中心としたワークショップ今後30年の科学の未来像—放射光の役割—」について報告があり、報告書が席上配布された。本ワークショップは、これからのサイエンスにおけるグランドデザインを学会として提示することをめざし、サイエンスの未来予測に基づく放射光科学の位置づけを明確にしようという問題意識のもと、約70名の参加者を得て、活発な討論が行われ、盛況のうちに閉幕した。ワークショップ報告書の最終版は「放射光」にも掲載される。さらに、今後は、継続的な議論の発展を意図し、年会・合同シンポジウムにおける企画提案等を検討してゆく予定である。また、第18回年会・合同シンポジウムの準備状況について報告があった。初めての佐賀開催であり、一般市民向けにわかりやすいサイエンスの講演を企画したり、佐賀県知事にも来てもらう等の新しい試みを検討している。このため、初日の総会の前に企画講演を配置する等、例年とは若干異なるプログラム構成になる見通しである。以上の行事幹事報告を承認した。
- 木村渉外幹事より、学会のホームページサーバーの移行スケジュールについて報告があった。すでに新しいサーバーは稼働している。旧サーバーは12月に契約を停止し、閉鎖する予定である。以上の渉外幹事報告を承認した。
- 百生会計幹事より、予算の執行状況に関する報告があった。学会誌「放射光」はVol. 17, No. 1から表紙および本文の一部がカラーになったが、No. 4までの状況では、ページ数がそれほど多くなっていないこともあり、当初計画の予算を下回っており、赤字になる心配はあまりないと考えられる。7月に開催した若手を中心とするワークショップについては行事開催費を執行した。また会費未納状況についての資料をもとに、もし知っている人がリストにあれば、ぜひ声をかけて会費を払うようお願いしてほしい旨の要請があった。以上の会計幹事報告を承認した。
- 桜井庶務幹事より、会員拡大運動の現状について現状報告があった。7月31日現在数は1236名であり、一進一退の状況を脱していない。今後は佐賀年会での新規入会が目標である。また、5月中旬頃に起きた名簿悪用問題について報告があり、さらにその対処として、会長・幹事会から会員へ緊急連絡を行う手段としてメールマガジンをたちあげたことが報告された。その積極的な利用策等については、次期会長にゆ

だねられる。以上の庶務幹事報告を承認した。

（その他）

- 次回第64回評議員会は、2004年11月27日（土）12時～15時に、東京大学工学部6号館大会議室で開催される。

■第9回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

- 2004年7月20日に応募を締め切ったところ、自薦2、他薦9、計11名の候補者からの応募があった。
- 2004年9月18日に審査委員会を東大工学部で開催した。優れた業績をもつ候補者が多く、絞り込みに苦労した。受賞候補者を4名まで絞る審査を行った後、そのうちの3名に奨励賞を授与することとし、さらなる絞り込みを行ったが、当日は2名を決定するにとどまった。
- 残る1名の受賞候補者については、再度調査を行ったうえで現会長と次期会長とで案を作ることにした。
- 3の作業を行い、残る1名の候補者を選び、その案に対して委員の了承を得る手続きを経て、受賞候補者を決定した。
- 2004年度日本放射光学会奨励賞受賞と決定した候補者および受賞理由は以下の通り。授賞式は、2005年1月8日に開催される日本放射光学会総会の場で行われる予定。

（審査委員会）

委員長 松下 正

委員 飯田厚夫、柿崎明人、谷口雅樹、中川敦史、中川一道、松原英一郎、水木純一郎、百生 敦、横山利彦

オブザーバー 下村 理（次期会長）

雨宮健太氏（東大・院・理・化学）1972年9月4日生

「軟X線分光器の開発とそれをを用いた新規手法による表面化学、表面磁性の研究」

（受賞理由）

雨宮健太氏は、これまで複数の軟X線分光光学系の設計製作に携わり重要な貢献をしてきた。光学系設計の機会を捉えてその都度、高分解能分光器デザインにおいて独自の工夫を行い、その時点で世界に誇れるレベルの高性能な光学系を実現してきた。また、自ら設計したビームラインを利用して、(1)磁性薄膜上に吸着させた分子が与える磁性への影響のX線磁気円二色性実験法による研究、(2)軟X線領域におけるエネルギー分散型XAFS装置の開発と秒単位での表面化学反応の追跡、(3)電子の出射角度を変えたオージェ電子収量法を用いたX線磁気円二色性実験法による磁性薄膜の深さ方向の磁性分析研究、など高いレベルの放射光利用研究を行っている。

原田慈久氏（理研量子電子材料研究チーム）1972年7月22日生

「軟X線発光の偏光依存性の研究とその応用」

（受賞理由）

原田慈久氏は、X線発光偏光依存性測定装置の開発に従事しその装置の性能を世界のトップレベルにすることに大きく貢献した。また、それをを用いて軽い遷移金属化合物の軟X線蛍光・ラマン散乱の偏光依存性を測定し、これらの物質がこれまで考えられていたような電子相関の強い単純なモット物質というよりは、酸素などとの共有結合性が強い物質であることを明らかにした。また、グラファイトでは弾性散乱の低エネルギー側の裾の散乱強度が励起状態の格子緩和に起因していることを示した。これらの

研究を通じて軟 X 線発光分光法が物性研究に有力な研究手法として認識されることに貢献し、またタンパク質への応用などさらなる発展の可能性を示した。

矢代 航氏 (物質機構ナノマテリアル研) 1972年1月18日生
「多波回折現象を利用した位相問題の研究と SiO₂/Si 界面下の歪みの解析への応用」
(受賞理由)

矢代航氏は、単結晶からの X 線散乱実験において、X 線同時反射条件に近い状態でブラッグ反射の裾にあらわれる crystal truncation rod 散乱強度が、他のブラッグ反射の励起条件の変化に大きく影響を受ける現象について詳細な解析および実験を行った。その結果、この crystal truncation rod 散乱強度の X 線入射角に対する変調は X 線定在波と類似すること、また表面近傍の歪みに敏感なことを示した。また、この現象を利用すると、表面からの 2 次元回折波の位相を実験的に回復することができることを示した。さらに、この手法を用いて SiO₂/Si 界面の解析を行い、Si 基板側に数百 nm にわたって極微小歪みが生じていることを初めて明らかにし、「静的構造揺らぎ」という新しい構造を発見した。矢代氏の開発した手法は、半導体デバイスなどの表面付近の歪み解析にとってますます重要になるものと評価できる。

■会費未納者への会誌発送停止について

これまで会費未納者にも会誌発送を行ってきたが、会費未納が 1 年続いた会員に対し、今後、会誌発送を停止することとした。但し遡って会費を支払った会員に対しては、停止をしていたバックナンバーはまとめて送付することとする。

年会・合同シンポジウムへの参加資格を得ることを目的に一時入会し、継続的に会費を払う意思のない会費未納者が増えている。多くの問題を含んでおり、解決は容易ではないが、当面、学会の経済的損失が拡大することを防止したい。

会員異動

第64回評議員会 (2004年11月27日) で承認

《正会員入会申込書》

松原英一郎 東北大 金研
高林 雄一 佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター
鈴木 光晴 阪府大 院 工学研究 電気・情報系 数理工学 (学生)
船越 郷志 阪府大 院 工学研究 電気・情報系 数理工学 (学生)
松方 正彦 早大 理工 応用化学
北崎 圭史 長岡技術科学大学院 (学生)
永尾 俊博 兵庫県立大 院 物質理学 (学生)
小田-望月紀子 立命館大 放射光生命科学センター
犬飼 学 名大 院 工学研究 (学生)
桑井 麻希 理研 播磨研 ハイスルーブットファクトリー
菅原 光明 理研 播磨研
北尾多貴男 名大 工 結晶材料工学 水谷研 (学生)
近藤 猛 名大 工 結晶材料工学 水谷研 (学生)
安川 勝正 京セラ 総合研究所
文 雅司 立命館大 理工 電子光情報工学
菊澤 健 立命館大 (学生)

攪上 将規 群馬大 院 工学研究 (学生)
加藤 有理 兵庫県立大 高度産業科学技術研究所 (学生)
櫻井 辰幸 兵庫県立大 (学生)
岸本 浩通 SRI 研究開発(株) 材料プロセス研究部
山崎 達也 広大 理 (学生)
林 雄二郎 九大 総合理工 先端エネルギー理工学 (学生)
垣内 徹 総研大 物質構造科学 (KEK 物構研) (学生)
中村 祐基 立命館大 COE 放射光生命科学センター (学生)
解良 聡 千葉大 工 電子機械工学
本田 幸司 九大 先導物質化学研究所 高原研 (学生)
山本 和弥 九大 先導物質化学研究所 高原研 (学生)
坂本 和昭 広大 理 物理科学 光物性研究室 (学生)
稲垣 怜史 早大 理
小田 泰史 立命館大 院 理工学物質理工 山田研 (学生)
堀田 健輔 千葉大 院 (学生)
豊田 大介 東大 院 工 (学生)
高橋 晴彦 東大 工 応化 (学生)
長谷川大祐 光子発生技術研究所
上野 剛 理研 播磨研
森本 竜一 立命館大 電子光情報工 山田研 (学生)
橋本 篤 立命館大 電子光情報工 山田研 (学生)
西川 起史 立命館大 電子光情報工 山田研 (学生)
秋永 隆宏 九大 院 工 (学生)
高久 絢也 立命館大 電子光情報工 山田研 (学生)
藤井 博之 九大 院 凝縮系科学 複雑系科学Ⅲ (学生)
高島 卓也 立命館大 院 理 物理理工 山田研 (学生)
徳永 隆人 立命館大 COE 生命科学センター (学生)
中沢絵美子 東理大 応物 中井研 (学生)
山下 満 兵庫県立工業技術センター 材料技術部
山本 恵輔 広大 化学 反応理化学研究室 (学生)
多田 修悟 広大 理 化学 反応物理化学研究室 (学生)
田中 弓弦 兵庫県立大 高度産業技術研究所 (学生)
伊藤 功 東大 物性研 軌道放射物性研究施設
藤原 秀紀 阪大 基礎工学研究 物質創成 菅研 (学生)
野本 豊和 名大 院 工 量子工学量子ビーム物性工学研究 G 曾田研 (学生)
細川 伸幸 日東真空被膜(株)
中川 愛湖 兵庫県立大 院 物質理学研 (学生)
池本 夕佳 高輝度センター
野田 武宏 関西学院大 理工 (学生)
成 者 英 広大 院 理 物理科学 (学生)
高橋 伸明 奈良先端大 (学生)
櫻田 芳恵 広大 院 理 (学生)
山田 真裕 広大 院 理 物理科学 (学生)
崔 小宇 広大 院 理 物理科学 光物性研究室谷口研
大田 佳実 神大 院 総合人間科学研究科 (学生)
湯本 博勝 阪大 工 精密科学 山内研 (学生)
丁 劍 佐賀大 ベンチャービジネスラボラトリー
野崎 洋 (株)豊田中央研究所
小菅 隆 KEK 物構研
日下 勝弘 原研 東海研 中性子利用センター中性子装置開発研究 G

安藝 隆裕 東工大 総合理工 材料物理 佐々木研 (学生)
 横田 幸信 九大 六本松キャンパス (学生)
 竹中 幹人 京大 院 工 高分子化学
 野島 彰紘 東大 院 理 化学 太田研 (学生)
 松井 貴弘 神大 院 総合人間科学研究科 (学生)
 守友 浩 名大 院 工 マテリアル理工学専攻
 白井 恭子 東理大 院 理学 化学 (学生)
 岡本 主税 阪大 産業科学研究所 (学生)
 濱 広幸 東北大 院 理 原子核
 岡本 博之 金沢大 医 保健
 垣内 拓大 愛媛大学 (学生)
 鈴木 基寛 高輝度センター

以上78名

《正会員退会申出者》

Chai-Ngam Ritthikrai 兵庫県立大 理学研究科 (学生)
 五十嵐潤一 原研 放射光センター
 萬谷 和也 阪府大 院 工 電気・情報 数理工学 (学生)
 合澤 清志 川崎重工 技術研究所

以上4名

《賛助会員退会申出社》

(株)帝国電機製作所

以上1社

《現在会員数》

正会員 1314名 (内学生 179名) 賛助会員 55社 (60口)

■2004年度次期会長・評議員選挙開票結果報告

2004年度の会長・評議員候補者の推薦および投票の集計を下記の要領にて行った。

1. 次期会長・評議員候補者の推薦集計

日時 2004年7月1日(木)

場所 東京大学物性研究所

出席者 高橋敏男

(事務局) 西野三和子, 田口綾子,
他アルバイト4名

2. 次期会長・評議員選挙の開票集計

日時 2004年7月29日(木)

場所 東京大学物性研究所

出席者 高橋敏男

(事務局) 西野三和子, 田口綾子,
他アルバイト5名

◇選挙結果◇

次期会長 (総投票数306票)

・任期: 2005年1月1日-2006年12月31日

下村 理

次期評議員 (総有効通数305通, 無効票数1通)

・任期: 2005年1月1日-2006年12月31日

石川 哲也	上野 信雄	宇理須恒雄	大熊 春夫
大隅 一政	古宮 聡	桜井 健次	佐藤 繁
菅 滋正	鈴木 芳生	難波 孝夫	野田 幸男
浜谷 望	宮原 恒晃	村上 洋一	

次期も引き続き評議員委員である者

・任期: 2004年1月1日-2005年12月31日

柿崎 明人	上坪 宏道	河田 洋	北村 英男
木下 豊彦	熊谷 教孝	坂田 誠	田中健一郎
谷口 雅樹	中井 泉	野村 昌治	松井 純爾
松下 正	圓山 裕	横山 利彦	

一ロメモ

カランコエ

ベンケイソウ科カランコエ属常緑宿根草のカランコエは非常に丈夫な多肉植物で、年間を通じて日光を好む。11月上旬には室内に入れ、日当たりのよい場所に置き、やや乾かし気味にする。新年になると、多数の花穂に小さな花がまとまって咲くので、株をうめるようになる。生育が早いので、毎年さし芽で簡単に増やすことができる。

私の居室ではカランコエを育てていまして、現在真っ赤な花が咲いています。ところで、昨年12月26日にインドネシア沖で発生しましたM9.0の大地震と津波の影響で東南アジアの国で甚大なる被害が出ていることは非常に胸が痛みます。中でも、私の研究室にて博士号を取得し、スマトラ島北部の都市メダンの大学で助教授をしているセンピリング氏とはいまだに連絡が取れず、大変心配しています。

(No. 61, K. Ohshima)

